



超私の奉仕

本 庄

ロータリークラブ会報

NO 43-9 第2068回 例会 9月8日

2005年9月15日 発行

2005～2006年度国際ロータリー会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー 第2570地区ガバナー 野中弘之
会長/野村正行 会長エレクト/渋谷修身 副会長/武井包光 副会長/中村 孝 幹事/温井一英

本日の例会

新世代のための月間

卓話 「幼児教育の現場から」
すみれ幼稚園園長 後藤芳生氏
本庄幼稚園教頭 五十嵐敦子氏

進 行 SAA 福島文江 委員
点 鐘 午後12時30分 野村正行 会長
ソング 「我等の生業」

会長の時間 野村正行 会長



皆さん今日は。
台風14号は九州地方に上陸し大きな爪跡を残し、日本海を北上し去りました。

幸い関東地区は被害も無く助かりました。この地方は災害も少ない本当に恵まれた土地

柄で、何よりと思います。

今日の例会のプログラムは「幼児教育の現場から」と題し、会員である講師後藤芳生すみれ幼稚園園長さん、同じく五十嵐敦子本庄幼稚園教頭さんの卓話をお願いしていますのでご紹介をいたします。

さて、9月は「新世代のための月間」で、前回の例会にはボーイスカウト第一団団委員長の飯島臣司様に卓話をしてもらいました。

青少年の活動に少なからず関係したお話で、大

変有意義でありました。

そこで、月間に関し新世代の使命である各ロータリアンの責務ですが、年齢14歳から30歳までのこの人達、つまり、新世代の色々なニーズを良く理解して、より良い未来を確実なものとし、それらの生活を高めることによって新世代に将来を備えさせることにあるとしています。

各クラブ、地区はこの新世代の基本的ニーズを支援する事業に取りかかることを奨励されています。

では、その基本的ニーズには、健康、人間の価値、教育、自己開発であるとしています。

そこで、「ロータリーの友」9月をみますと、青少年達に対する活動の取り組みを各クラブロータリアンが着手している記事が多く載っています。

当クラブロータリアンで、これらの事業を参考にして取り組みいたしましょう。

報告事項

9月3日(土)は坂戸グランドホテルに於いて第1回地区ロータリー財団セミナーが開催され、ロータリー財団委員会の野澤副委員長が出席されました。

幹事報告 温井一英 幹事

- 新潟県中越大地震活動報告書「それでも我大地を愛す」が届きました。



- 第3回ロータリー囲碁東京大会開催のご案内が来ました。
- 麻薬、覚醒剤乱用防止センターからリーフレットと国連支援募金箱を届けていますが、各テ

ブルに募金箱を回しますので、ご協力をお願いいたします。

- ・ ロータリー米山記念奨学会より、7月の寄付傾向と寄付金明細一覧表が届いています。

委員会報告

野澤章夫 ロータリー財団副委員長



9月3日、第1回
ロータリー財団セミナーに出席して来ました。
第2ゾーンロータリー財団コーディネーターで、2001～02年度第2590地区パストガバナー横浜 RC の上野 孝様から、ロータリー財団の動向について話が

ありました。

財団の資金、管理、基金の運用状況について報告があり、運用利回りは恒久基金で 8.7%、ポリオプラス基金は 5.8%、年次寄付はこの 10 年間平均で 8.6%という事でした。また、運営費の増加が問題との事ですが、他の財団(ライオンズ・キックス)等と比較して一般管理費は低く抑えられているようです。

その他として以下のスケジュールで行われました。

- ① ロータリー財団の改正について
- ② 地区補助金の申請書及び報告書作成について
- ③ ロータリー財団クイズ
- ④ 国際親善奨学生について
2006～07 年度派遣国際親善奨学生自己紹介
国際親善奨学生帰国学生報告
- ⑤ 質疑応答

立石秀寿 米山奨学委員長

来月 10 月は米山月間です。本年度の普通寄付金は 1 人あたり 2000 円で 74 名分 148,000 円前期分として納入いたしました。

過去累計(普通寄付・特別寄付)は 30,216,500 円米山奨学会に寄付をいたしております。



本年度も会員皆様のご協力をお願いいたします。
尚、10月13日例会日に地区役員と米山奨学生の卓話を予定しております。

ゴルフ部 石原 修 会員



9月29日赤城ゴルフクラブに於いて、集合時間 8 時 30 分、9 時 17 分スタートでゴルフコンペを開催しましたので宜しくお願いいたします。
親睦委員会より、同日水上温泉水上館において、移動例会を行います。
欠席の返事を出された方でも、当日都合が付いた方はご連絡ください。

コニコボックス 渋澤健司 委員長 (敬省略)



本日は後藤さん、五十嵐さん卓話よろしくおねがいいたします。

(同文にてご投入頂きました)

下山正男	渋澤健司	田中 克	渋谷修身
中島高夫	戸谷 丈	春山茂之	内野昭二郎
岡芹正美	江原栄一	岡崎正六	岩渕富男
野澤章夫	石原輝弥	野村正行	橋本恒男
金子 弘	矢島淳一	西村賢次	福島文江
巴 高志	武井包光	沼田恵義	梅村孝雄
三宅健吉	立石秀寿	佐藤賀則	

塚越 茂

ジャズのふるさとニューオリンズのアフリカ系アメリカ人を励まそう。

後藤芳生

卓話の機会をいただきありがとうございます。

温井一英

9月11日は投票日です。国民の義務ですのでぜひ行ってください。

岩本英人

酒の秋、2人で飲むお酒もより美味しくなります。

竹並栄一郎

本日配布されたかわら版「こだま」に当社納涼祭の記事を載せて頂きました。笠原さん有難うございました。

笠原 勝

9/5 号かわら版「こだま」を 30 部持って参りました。読んで頂ければ幸いです。

戸谷清一

「ケーブルテレビは街づくり」9月19日(月)よりNHK大河ドラマ「獅子の時代」が17チャンネルで始まります。

石原 修

9月の移動例会出欠のファックスが届いていない方、今日がタイムリミットです。宜しくお願いいたします。

加藤玄静

本日、皆野長瀬 RC にガバナー補佐訪問です。ガバナー補佐とし行って参ります。

本日ニコニコ合計 46、000円

出席報告 塚越 茂 委員

(敬省略)



欠席届出者

今泉憲治 金井直樹 古瀬末雄 近藤伸侑
斉藤清一 坂本雄一 関口雅之 高柳育行
野口光大 藤井 仁 町田国彦 横尾セツ

会 員 数	出 席 免 除 会 員 数	出 席 義 務 会 員 数	出 席 会 員 数	出 席 率
77 名	7 名	70 名	47 名	68,6%

メーキャップ数 1 枚

矢島淳一 プログラム委員長



新世代月間ということで、本日は幼稚園の幼児教育に携わっているお2人に卓話をお願いいたします。

卓話

「保育と遊び」

すみれ幼稚園園長 後藤芳生 氏



体育に、いかに遊びとか楽しさ等を取り入れるか？や「遊びの考え方」等「楽しさ」が先行して「やりたくない事はやらなくても・・・」苦しい事から避けて通る風潮が最近まかり通って入る様に思う。

幼児の場合、遊びからいろいろな体験を通じて学んでいくのだからそれでいい。しかし、学校に入ってまで同じでいいのだろうか？「遊び方」まで教えてもらわなくてはならない子は、将来一本立ち出来るのだろうか？遊びなんて理屈を言ったりする必要はない。「正しい遊び方の指導」など「正しい」とか「あり方」がないのが遊びだと思ふ。

戦後、楽しくない事を押しつけるのは非民主的だと教わってきた。この事は過保護に繋がらないだろうか？甘やかしたりしていないだろうか？

子どもの自由意志を尊重するのが良い教育と言われて久しいが、所詮子どもは子どもである。そんな甘やかしが体ばかり大きくなって、ちょっと苦しくなれば脱落し、骨折し、頑張りのきかない子がとても多くなった。いかにも物解りの良さそうな親や、教師が世の中に多くなりすぎた。

週休2日制になって「遊び方教室」が多くなった。遊びなんて個人にとって千差万別で「かくあるべきもの」という公式はない。個性と自由選択

があつてこそ本当の遊びだと思う。

一方、学校における体育は、将来実社会に出た時、又、困難にチャレンジし、たくましく生きることが出来る子を育てる目的がある。泳げない子は首根っこを押さえても泳がせなくてははいけない。懸垂が1回した出来ない子は2回、3回にチャレンジさせなくてははいけない。人間は苦しいほど可能性が増す。もちろん体育で健康を損ねてまでやらせる必要はない。長い目でみて健康な体、頑張りの効く精神力、自分自身がコントロール出来る自制心、又、この豊かな時代にハングリー精神を養う為のものでなければならぬ。

体育は知的、徳育と並んで間違いなく教育である。そして、学校は遊びに行く所ではない。

一方、スポーツは遊びである。個人の趣味である。暇つぶしである。好きだから自分の意思でやるものである。スポーツは教育の手段になり得るが、教育ではない。やりたくなければやらなくていい。

このやりたくなければ論が、最近まかり通ってきた。学校の事業が成り立たないのである。

その元凶は「自由保育」にあった。自由と放任をはき違える傾向が続き、生活習慣を身につけないうまま社会に巣立ってしまう。

3つ子の魂百までである。ロータリアンの皆さんが我慢の精神を今、教えてこそ日本の将来がある。嫌な事もやらせてください。

「幼児教育について」

本庄幼稚園教頭 五十嵐敦子 氏



幼児教育とは、生涯の人間形成の基礎、生きる力を養う教育である。

幼稚園は、満3歳から小学校入学まで教育を行う学校である。幼稚園は学校なので「幼稚園教育要綱」が定められている。また、幼稚園は、多くの体験が出来る様に行事がある。

10月には、運動会があり、リレーで負けると悔し泣きする。製作するときも、先生は意図的に子供達に学習できるように働きかける。

また、リアルにライオンの絵を描き、怖くなって黒のクレヨンで檻を書いて安心する。さつま芋畑を掘り起こして、どれくらい大きくなったか観察したかった子。子供達はすばらしい感性を持っています。そんな子供達を健全に育てあげられたら、20年後は、もっとすてきな社会になると思います。

ロータリーの友9月号に「お願い聞いて、心の叫びを」「死んだらどこへいくの?」と記載されている。

幼稚園でも、身内のお葬式だからと幼稚園に預けたり、寿命の短い生き物は飼わない、飼っている生き物が死んだら、子供に見つからないように始末する。「死」について学ぶ機会を無くしている。

ゲームの中で生き返る「死」しか知らずに大きくなる。感性の豊かな子供だから、死んだら会えなくなる、生き返らないことなど、命の尊さを伝えて欲しい。

ロータリーの友に、子供達がもっと仲間を作って安全に遊べる場所、本気で喜んで、本気で泣いて、本気で、感動できる場所をつくろうと書かれている。

幼稚園こそ、そんな場所でありたい。

広聴広報委員会 中島高夫・杉山淑子・岩本英人・笠原 勝・西村賢次

■例会日 毎週木曜日 12:30～13:30
■事務所 埼玉グランドホテル本庄 700 号
〒367-0041 本庄市駅南 2-2-1
TEL 0495-22-7522 FAX 0495-22-3571

■例会場 埼玉グランドホテル本庄
Eメール honjorc@themis.ocn.ne.jp
ホームページ
<http://www.globals.jp/hp/HRotary/index.html>